

# 紫 筍

第 26 号



最後まで頑張って応援する文京高プラスバンド部  
東東京大会、城西高校と対戦・58年7月 神宮球場  
(読売新聞社、社会部、野球班の写真提供による)

都立文京高等学校同窓会々誌

昭和59年2月1日刊

## 第8弾

## 仏文からフランス料理へ

大  
あべ野

辻調理師専門学校々々

辻 静雄 さん

## プロフィール

昭和八年、駒込生れ。文京高等学校を昭和二十六年三月卒業（3期A組）。早稲田大学文学部仏文科卒業後、読売新聞大阪本社に入社。二年間の社会部記者生活を経て料理家の道に。卒業生は三万人を数え、自ら教鞭をとるかたわら「舌の世界史」をはじめ著書も多数。五十歳。

今回の直撃インタビューは、調理師の養成にかけては名高い辻調理師専門学校校長をされている辻静雄氏を目黒の自宅に訪問、学生時代のことから音楽、料理に至るまで約一時間のお話をお届けいたします。

（河辺恒治・渡辺展文）

## 映画館通いの高校時代

Q、新制3期の御卒業でもあり、母校国語科の太田敏夫先生と同期でいらっしやるんですね。

A、ええ、彼とはクラスも同じでして、すご



く優秀な人でね、何をやってもできる人でした。学生同志ではあまり尊敬という言葉は使わないんですけど、彼はその言葉に値する人で、何をしてもかなわないという印象がありますね。

Q、辻さん御自身はどんな高校生でいらっしやいましたか？

A、もう出来が悪くてね。あの頃はあまり勉強しなかったですね。終戦のどさくさの中で、朝、弁当を持って学校へ行くんだけど、その後は神保町の角から駿河台の方へ行ったところに映画館があつて、そこへいつも行っていた記憶がありますね。ただ学校では、川井先生という方にとつてもよく英語を教えていただいたのを憶えています。

## 語学は叔父に猛特訓

Q、西岡先生から何がつたんですが、在学中はとつても語学がよくできる生徒だったと。

A、いやいや、本当は劣等生でね。手が付けられなかったんじゃないかな……（笑）

Q、語学には特に力をいれてらっしやつたんですか？

A、当時、大使だった叔父がイギリスから帰ってきたばかりで、ちよこちよこ遊びに行つてくつたから教わるようになったん

です。現在の英語教育では考えられないようなスパルタ式でしたよ。

Q、ラジオのクラシック番組に御出演なさつたりして、とても音楽には精通していらっしやるようですね。

A、昔からクラシックが好きでした。家からお金を持ち出してはレコードを買ひあさつてましたね。電蓄を買えるのはお金持ちの子でね、うちは金持ちではありませんでしたから、針は竹製で、しかも手で回してよく聞いていました。一番好きなのは室内楽です。

Q、辻さんが在学当時は、まだ校舎が文京区の元町小学校にあつたころですね。

A、ええ、入学した頃から卒業するまで、ず

うっとそうでした。  
胸 時めく女学生

Q、四年前でしたか、上野動物園の副園長で水族館の館長をされている矢島稔氏にこの直撃インタビューに登場していただいた時の話で、「学校の途中に女子高校があつて胸ときめかせてその女学生にみとれてた……」なんて伺いましたが。

A、矢島君も同級生でね、この前TBSのあのパーティーの席上で一緒にになりましたけど、随分有名になっちゃいましたね。そう、あれは学校の途中に坂があつて、その左側に桜陰という女学校があつたんですが、当時の私達の学校は男子校でしたから女学生がめずらしくてね……。よく女の子がたくさん乗る電車にわざと乗つたりしたもんですよ。(笑)

Q、ロマンスの一つ二つ芽生えるなんてことは？

A、いや、全然もてなかつたですよ。金もなしね……。

Q、さて、晴れて高校を御卒業なさってから？

A、二年浪人しましてね、その間日仏学院に通っていました。大学は最初、早稲田の露文に入ったんですが、時勢柄が親父に反対

されて三日でやめて、それから仏文にはいりなおしたわけです。

Q、フランスには特に興味をお持ちだったんですか？

A、どこでもよかつたんですけど、英文はたくさんの方がいるし、少ない方が自分にもチャンスがやってくるんじゃないかと思つて行つた感じですね。

#### 人生 最大の収穫 記者時代

Q、大学御卒業後は？

A、大阪の読売新聞社に入社しました。これも東京本社がだめだったんでね。新聞社では社会部の記者として警察回りというやつをしていました。二年の間でしたけど、給料をもらうのが悪いくらい、いろいろな事を教わりました。今日の僕があるのも読売で働かせて頂いたおかげだと思つています。こういう機会というのには人生に二度とないんじゃないかなと思つてますが、もし僕の息子が社会人になるとしたら、新聞社に入社して、社会部で働かせてやりたいと思つています。

Q、二年間、貴重な体験を積まれた後はどうなさつたんですか？

A、読売をやめる半年ほど前に結婚いたしました。妻の実家がたまたま料理人を養成す

る学校をやつていたものですから、僕もその世界に足を踏み入れたわけです。

#### ラッキーなスタート

Q、それまでに料理の勉強はなさつていらしたんですか？

A、いえ、ですから半年間というもの、コックさんを雇つたり、フランスへ勉強しに行つたりして、とにかくお金をかけました。

この最初にお金をかけられたというのがとってもラッキーだったと思います。それから記者時代に大勢を把握するというのを身につけていましたので、その後は順調で、当時九十八名だった生徒数も二十四年後の現在、二千五百名の学校にすることができました。

Q、苦勞されたというのはどんな事ですか？

A、そうですね、二十数年間遊つて考えてみますと、苦勞したとかいうことは全く感じませんね。ただ、知ろうとしたものが知れ学ぼうと思つたものが学べたというだけで、ただただラッキーだったと思います。資本主義の世の中ですから、お金がなければなにもできません。もちろんあればできるといふものでもないでしょうけど、とりあえずは、なければどうすることもできないんですね。この一点に関し、不自由なくやつ



てこれたことが現在の自分につながっていることだと思います。

Q、その他に絶対必要条件というのは？

A、そう当然のことながら健康な身体でしょうね。何を食べても丈夫でいられるという身体、それから、短い睡眠時間でもやってこれなかったらだめだったと思います。僕の場合、勉強することが多過ぎて寝る時間がもつたいなくて。

良い料理はお金次第

Q、スーパーマンですね。ところで辻さんの料理に対する考えをお聞かせ願いたいのですが。

A、料理っていうのはピンからキリまである

わけで、例えばみんな自分の食べているものはうまいと感じる人と、何から何まで気に入らないという人がいて、料理という対象は一つでも感じ方はみんな違うと思うんです。ただ料理の専門家として言えることは、いくつの等級に分別していいかわかりませんが、たくさんの階層の料理があるわけで、うまいとか、まずいとかいうことは後の問題で、良い料理をと思ったら絶対にまず材料が良くなければいけないということだと思います。良い材料を買おうと思ったら、それがとれる所へ行けば安く買えますが、離れていけば高くなるわけです。みんなが食べたがるのは高いものが多いですから、結論から言ってしまうとお金があれば何も始まらないということ。従って良い料理をいかに安くお客さんに食べさせるかということ。どこかで手を抜くか、どこかで安く仕入れるか、これしか方法がないわけです。腕で勝負するか、仕入れの方法で勝負するかどちらかということですね。

次に家庭の主婦は料理人と違って食べさせる相手は常に同じで決まっているわけですから、食べてもらおうその相手に、おいしいと言ってもらえばそれでいいわけです。お金をかけなくても、ちょっとした心使いが

大事なんです。ですから、料理人と主婦では努力する競争の場が全く違うんですね。そういうことだけわかっていれればいいと学校では生徒達に教えています。

Q、学校での課程はどのようになっているんですか？

A、学校では一年間に一六五〇品の料理を教えているんですが、生徒達には、そのうちの1%覚えていたら食っていけるから安心してしろと言っています。

Q、という事は十品ちよつとで良いということですね。

A、十品あれば大丈夫でしょうね。それ以上覚えておくとか、それ以上の料理が出来るというのは飾りにすぎないんです。店の飾りであり、コックさんの飾りです。

フランスにお城を購入して

Q、フランスにお城をお買いになつたらいいですね。

A、ええ、卒業生の研修の為に毎年約百名行かせてますが、向うでは朝から晩までフランス人の先生に料理と言葉の勉強をうけて、材料から全てにいたるまで本場の味の勉強をしているわけです。

(これからも益々の御発展をお祈りいたします。今日は、どうもありがとうございました。)

# 蠣殻町界限

——五十年の昔——

太田 實

蠣殻町「かきがらちよう」と読む。北は人形町、芳町、東は浜町、南は箱崎町、西は茅場町、兜町、小網町に隣するのが私の出生地である。文字通り地面を掘ると貝殻ばかり出る土地で、芳町(葎ばかり生えていたところ)、茅場町(屋根に葎く「かや」にする葎の採取場)と並んで昔は海だった場所だとよくわかる。いかにもひなびた名であるが住んでいた人間もそれにふさわしい気取りのない暮らしぶりだった。

下町という名はこのごろ変質し、なにやら由緒ありげな高級ムードを誇示したりする向きもあるようだが、私の生まれたころは真正正銘の庶民の町だった。庶民というのは金にも学歴にも縁のない人々の名称で、自分たちのことを中流だなどとは決して考えたりしなかった。私の小学校の同級生五十数人のことを思い出しても、インテリの家庭というのはなかった。ワルノリして速断すれば、五十年

前あのあたりにはスズメ、ツバメはいたけれど、ゲツキユウトリはいなかった。付言するとカラスもほとんど見たことはなかった。町が清潔だったと言つと聞こえがよいが、捨てるゴミも少く家のまわりを汚くしておいて寝ている家が多かったと言つた方が正しい。庭のある家などもなかったが、朝日がさす時分にはどの家の前もきれいに掃かれ打ち水がされていたことを憶えている。

そのような町で生まれた。昭和四年七月二十日。世は不景気の底とのことだが本人に記憶はない。戸籍では次男、五番目の子で母三十三歳厄年の所生である。以後三弟一妹を持つ。次姉一歳で小児結核で死亡。昭和十三年三男結核性髄膜炎で死亡。五歳。十五年十二月長兄肺結核で死亡。十八歳。弟は二階の西側の窓下で、頭の痛みに食いしばっていた歯をゆるめた吐息が最後の息だった。兄は武蔵小金井の周囲に人家もなかった病院で独り逝った。発病半歳の慌しさである。

昭和十六年七月、私の番になった。左胸部が結核菌におかされ胸膜に水が溜まり、夜半高熱とともに呼吸ができなくなった苦しさが今も記憶にある。半歳、母の看護と悪運の強さで学校に出られるようになる。十八年長姉肺門リンパ腺腫脹(懐古的な病名)で西伊

豆に転地、戦後どうやらなおる。延々とわが家の不幸を記したのは、これがそう珍しいことでなかったからで、その他疫痢、赤痢、腸チフス、急性肺炎など医者と坊主が踵を接してやって来て、翌日はさ、やかな葬式というのは町内のそちこちで見かけることだった。はつきり言えば科学的根拠に立つ衛生意識が乏しかったのである。

わが家の結核禍は昭和二十八年、四男高二の時腎結核の摘除手術で終焉する。ストマイ、パス、ヒドラジッドという旧三種の神器と呼ばれる薬のおかげであったが、根源は母の生母が肺結核で若死し、母は発病するほどでなかったが保菌者であったことにあるらしい。九人の子を生しながら三人を失って、最も悲しんだのも母であることを考えると、運命は皮肉なものである。母は八十七歳、健在。

蠣殻町の名物は水天宮である。日本橋区と呼ばれていたころの区役所(現在の支所)も町内にあるけれど、意識していた人はいないようだった。今も五日の縁日や犬の日には安産祈願の人で賑わうが、六歳で老婆に無理心中で溺れさせられた安徳天皇が、なんで安産にご利益があるのか知らないが、昔の人は今日の比ではなかった。縁日の賑わいは、水天宮の交差点から人形町方向に両側二百メー



トル、甘酒横町との交差点まで、土州橋方向百メートル。浜町方向は松島のお酉さんのある横町まで百メートル。兜町方向は昼夜銀行（現在富士銀行）辺まで百メートルに露店がびっしりと並んだ。一店の間口？が一間半とすれば、三百は出たものと思われる。歩道はその分狭くなるから当然人の足並は遅くなる。し雑踏は昼過ぎから夜の九時ころまでは続く。いつも裏露地の横町でじゃんけずも、石けり、どこゆき競走などで遊んでいる連中も縁日が立つと、金があつてもなくつても出かけて行くから釣られて行くことになる。バナナ

屋は見ているだけのジャリは嫌うので敬遠して、気に入っていたのは七色唐辛子（シチミというのはセーロクの方言）、山雀のおみくじ、ガマの油売り、のししか製造即売等々。唐辛屋は赤い袋帽子、だぶだぶの道服で奇妙な節まわしで口上を唱えながら硝子屏風で囲った仕切り箱から掬い上げては袋に入れる。

「武州葛西の名産 青のり。野州栃木の名産 麻の実。紀州有田の名産 密柑の皮。下総八街の名産 黒胡麻。云々」。唐辛子の量で大辛中辛、小辛とあることは幼な心にしみてよくわかった。山雀のおみくじは五銭（焼芋を買うと持ち切れなかった）だったからこれも見るだけ。箆から出た山雀が穴明き白銅貨をくわえて鳥居をくぐり、鈴の紐を振って賽銭を箱に入れ、お宮の扉をパタパタと開いておみくじをつまみ出し、首を振って扉をしめ鳥居をくぐって出てくると主人の手にポトリと落とす。これはたまらなく面白いシヨウだった。山雀は国語の読本にはトンカラと鳴くとあつたのに、鳴声はついぞ聞いたことがなかったのしいかは、スルメを焼いてロールに幾回か通すうちに、虫歯では手に負えぬスルメがいとも簡単にそれこそそのされてしまう。香ばしいにおいと、メカニカルな変貌が楽しみだった。ガマの油売りは始める前から最前列にし

やがんでいると、アセチレンランプに居合刀がきらめき、横びんに針を植えたてたドラ声の周囲を圧する時分には、ドキドキしているうちに人だかりを抜け出るより終るまでということになり、夕飯ときを逸して大目玉を食うことが多かった。

子供には縁がなかったけれども、芳町との境に米穀取引所があった。鎧橋向この証券取引所ほどではなかったにしても昼のひけ時に鐘がチャンチャンと鳴るとなかなかの人数が町中にあふれた。正式の取引メンバーでなくて、場外で相場で賭けをするのを生業にしている合百師という人々が多勢いて、警察が時々気が向くと手入れをする。幾人もが腰縄でつながれて歩くのに奇異の眼を向けたことも二度三度のことではない。

いつも騒然とした町だったが、大晦日の除夜の鐘、（これがよく耳をすませていても、減多に聞こえない）。時分から静かになり、元旦は朝日が昇っても通る人もないというのは、清少納言の描写に一致することに感心したころ太平洋戦争が始まり、食うにも事欠く毎日ややって来て、とめどもない変化の流れが今日になっても停まらないのである。

（昭和58年4月1日、母校教頭として、都立白鷗高校から赴任）

# “黒の海”

渡辺隆根

(昭和33年D組卒)



彫刻を一点、母校に寄贈する事を思い立つたのは、ここ数年来の事でした。さて、どの作品をと思ふ時、まず思ふいかべるのが、この作品『黒の海』でした。あこがれの新制作協会の会員に推挙された年、機会があつて、オーストリヤリンダブルンの石彫シンポジウムに招待された。

留守にしたその年の新制作展へ向けて本当に熱くなって制作した。毎日、ノミをファイゴで焼き、ヤキを入れ、一・五キロのハンマーを振り続けた夏の充実した日々を思い出す。展覧会の評判は良く、私は報われた気がした。手放したくない作品、さまざま思いがこの作品には去来する。

残暑さびしい九月初旬、文京高校を訪ねた。ただ作品にしかるべき場所を与えてやりたかつた。若い人が見てくれる所なら、きっと私がこの作品にかけた何かを感じてくれるのではないかという時代を無視したロマンティズムがあつた。

十数年ぶりに文京高校の庭に立つと、大学院を卒業して間もない頃、ほんのしばらく、夜間の非常勤講師を勤めたが、その時とも違うなつかしさがこみ上げて来るのは、私の年令とも無関係ではなさそうだ。私の知っている先生方は全くおられなかったが、教頭の太

田先生を初め、心良く私の申し出を受け入れて下さり、又その他諸々の事を御配慮して下さいました。まず思いどおり彫刻を設置する事になった事はめでたく、感謝しております。

思えば二十数年前、当時他校に先がけて鉄筋コンクリート造りになり、モダンな校舎に彩られ、かなりの倍率の難関を越え、はりさけそうな胸をおさえて、A組の机に坐つた最初の日の感動は今でもさまざまと思ひ出される。

その後の私の出来の悪さはしだいに記憶から遠のくとしても、その日社会の時間だつたと思う、将来なになりたいかを順時発言して行つた。私の番で私は彫刻家になりたいと言つた。不審そうな教師の顔の何故という質問にはうまく答えられなかった。

小学校でもそう言つた。中学校でもそう言つた。彫刻家になると言つて、現在まがりなりにも彫刻家であるのだから何とも美しい話であるが、思ひ出すたび顔から火が出る思いである。父親から言われ続けていたとはいへ、その単純さと無知さには驚かばかりである。

彫刻を続ければ続けるほど、難かしさが多少なり解ければ解るほど、何の疑いもなく明快に彫刻家になると言つていたのは、少年時代とはいえますます耻ずかしさがつので来るのである。

さすがに高校生活の中では彫刻家になると  
いう事の意味を漠然とは理解していたが、親  
の期待は奇妙に重かった。宿題やら、試験や  
らの日常にうずもれ、最も彫刻家になるとい  
うことを考えなかつた時期であつた。卒業を  
間近にひかえ、まだ進むべき大学が選べなかつた時、才能と相談したり、持ち前の俗の壁にはばまれ、決めかねて、切つばまつた状態の中で、緩慢と怠惰な時を過した記憶も不快に蘇る。彫刻をやるうと芸大受験の一ヶ月前に決心し、美術大学といえは芸大しか知らず、一年後そこで彫刻の勉強を始めたのは全く幸運としか思えない。



(現在、東京造形大学助教)

石彫を始めて二十年位になるのか、たくさん彫刻を作つて来た。右肩が少し痛む、あと

何年石を彫つていられるのか。  
しかし、彫刻を選んで良かった。人生を確  
認して行けるものがある。

やはりあの作品は文京高校が良い。あの場所  
にずっと昔からあつたように置かれ、朝の  
キラキラと光る若者の眼に触れ、時を超えて  
そこにあるのが良い。

## 職員異動

### 退職された先生

石川 秀次 教頭 5年在任 東京女子医大  
(退職) 看護短大講師

山浦 徳明 保健 8年 都立忍岡高へ

濁川 富雄 化学 6年 清瀬高へ

桃原 信喜 用務 26年 高島高へ

相良 真澄 清掃 10年 退職

### 新任者 前任校

太田 実 教頭 都立白鷗高より

中島 博昭 保健 武蔵村山東高より

坂井 秀敏 化学 足立高より

## 訃報

門馬 武先生(警備員)

昭和58年4月2日御逝去 89才

明治43年 門馬眼鏡縁製作所

昭和10年 前田鉄工所

24年 北部青果会社

26年 都立大塚ろう学校警備員

35年 池袋商業高校

36年 小石川工業

40年 文京高校

森田早稲先生(美術)

昭和58年9月25日御逝去 70才

8年 郷里高知で小学校の教員

11年 東京数矢小学校教員

17年 第三東京市立中学校(現文京高)教諭

20年 36年 高知で中学、高校の教諭

40年 文京高校、北野高定の講師として美術を担当

慎しんで御冥福をお祈りいたします。



佐々木 益 男先生

略歴

勲四等瑞宝章受勲(昭和58年春)

明治40・4・1生

大正15年 広島高等師範学校英語科卒

昭和6年 北海道庁立名寄中、滝川中教諭

昭和6年 小倉市私立常磐中教諭

昭和13年 東京市立向島商業学校教諭

(同窓会長渡辺剛彰氏祝辞)



昭和15年 第三東京市立中学校教諭

昭和22年 杉並区立西田中学校校長

昭和23年 中野区立第六

昭和27年 豊島区立千川

昭和32年 高田

昭和36年 教育庁人事部職員課管理主事

昭和38年 都立向丘高等学校校長

昭和45年 北九州市西南女学院高校顧問

昭和47年 ロゴス教育経営研究所長

昭和58年 西荻学園幼稚園園長

学校時代は言うまでもなく、ロゴス所長として、将来の教育界現場を担う人々の教育指導に当たり、多くの人々から感謝される。

丸岡 真 幸先生

勲四等瑞宝章受勲(昭和58年秋)

略歴 明治40・11・27生

昭和12年 東京文理科大学史学科卒業

山形県師範学校教諭

昭和15年 東京府立第三中学校(現両国高校)教諭

昭和33年 都立葛飾野高校学校長

昭和38年 都立文京高等学校長

昭和43年 退職

両国高校時代は、五十周年記念事業に取組

み庶務部長として完成に努力。

葛飾野高校時代は、馬小屋と言われた木造校舎の改築、独立図書館の新設、三千坪の沼を埋立て野球場、テニスコートを完成。

文京高校時代は、都の中央児童相談所の跡地の確保、校旗、校歌の制定(土岐善麿氏作詩、平井康三郎氏作曲)と東京文化会館大ホールでの校歌発表会の実施、社会科学教育研究指定校の引受けなどに尽力。



昭和56年第一回現旧教職員のみ集い、乾杯の音頭



ファイヤー・ストーム

1年合宿（5月）伊豆ラヶ浜



書道（授業選択者）



スポーツ大会（6月）  
（OB 教生も共に）



文化祭（10月）1D クラス演劇





フィーリングカップ (3C)

合唱祭 (3F)



1500メートル (予選通過者)

体育祭 (9月) ブラバンの入場



緑  
級  
団  
3 I  
・ J  
3 J  
・ G  
2 G  
・  
I D



白級団  
 ( 3 · E  
 2 · H  
 2 · I  
 1 · B )



雨 雨 雨  
 雨 雨 雨  
 雨 雨 雨

1. 応援合戦
  2. 100m 走
  3. 棒倒し
  4. 騎馬戦
  5. 1000・1500m
  6. 級団演技
- 他は雨で中止



騎馬戦



級団勢揃い

## 文京高校水泳部

### 創設二十五周年の会

同窓生の皆さん、平素大変ご無沙汰致して居りますが、お世話になりました諸先生方はじめ、皆様には益々ご健勝の事と存じます。

さて、過る五十八年八月二十七日(土)、表題の如く大塚「大和田」に於て、塩田徹先生(現日比谷高校)、佐藤三和子先生(現足立西高校)、福本正道先生(存文京高校)のご参加を得、総勢七十余名、懐かしい顔が集まりました。

「オスッ」「ヨーツッ」「こんばんはッ」「久しぶりだなあッ」「生きてたかッ」「ご無沙汰してますッ」「美人になったなあッ」「該当者? 約一名?」等々、「朋、遠方より来たる、亦、樂しからずや」の感、ひとしおでありました。例の如く、定刻を過ぎる事約一時間、三十六年卒市川道夫先輩の乾杯の音頭「今夜は、のんびり楽しく飲みましよう」、の大酒豪らしいご挨拶で、会が始まりました。

余興は二次会という事で、老若(?)男女、あちらの席からこちら席にと、酒びん抱えての大討論会でありました。

塩田先生「西沢溪谷の「魔のつり橋」、思い

出すたびに、寒気がしますね」

佐藤先生「夜間部の先生でした時、我々の練習が遅くまでかかり、よく叱られましたね。」

坂本先生、渋谷先生、

「先生方の毒舌、非常に懐しく、又お聞きできるのではと、楽しみにしていたのですが」

湯本先生「例の合宿では、大変お世話になりました。あのお寿司やさんでまた一杯、いかがでしょうか」

亀岡先生、吉野先生、

「次会には、是非出席されるよう、よろしくお願い申し上げます」

西岡先生、松浦先生、福本先生

「今後共、現役のご指導、ご助力、何とぞよろしく」

時間との制約があり、出席者の全員と旧交を温めるに至らず、その点残念でありましたが、時の許す限りの雑談義は、それが過ぎても尚、止めどなく、飽きる事なく続き、それこそ、青春時代のまん中に、皆がいる様な思いがしました。

参加者の大半が残ってくれた二次会では、先ずカラオケの師匠、四十三年卒古池敏人君

の歌い初め、相変らずのうまさです。続いて市川大先輩が心をこめての「ダイアナ」、酒の如くに豪快で、熱っぽく歌い上げ、万来の拍手喝采でありました。次から次へと芸達者が目白押し、とりわけ、あ的小田部(四十四年卒)君が、タンバリンでリズムを取り、歌いそして踊っている光景は、昔をよく知る自分にとっては、驚愕の色を隠せませんでした。時の過ぎゆくまに、終宴を告げる頃には、一人去り二人去りと、午前二時近く、大いに話し、飲み歌い疲れた若者(?)達が、再会を期して、それぞれに散会していきました。

最後になりましたが、今回連絡できなかった方々、折悪しく出席できなかつた方々、次会には是非出席下さる様、宜しくお願い申し上げます。今「OB会」を機に、完全なる「OB会名簿」をと思い、作成しましたが、未だ不完全であります。そこで、この「紫旬」を読まれた方の中に、落ちている方がいらっしやいましたら、幹事までご一報下さいませように、宣しく。

また、今「OB会開催」と、「OB会名簿作成」にあたり、大なる努力と忍耐、そして時間を費して下さいました幹事諸君(自分を除いて?)、本当にご苦勞様でした、今OB会出席者を代表しまして深謝する次第であります。



創立四十周年記念誌より



四十周年記念誌

(56年3月刊、残部かぎり)

ご購入希望者は1,500円現金書留で、同窓会まで。

そして、今後共、そのお役目(?)よろしく  
お願い申し上げます。こりずにね!!

昭和五十八年十一月記

以上

四十年卒業 飯塚紀彦

「OB会」幹事

四十三年卒 平野秋一朗 ☎ 918 二九三九

四十五年卒 近藤 高史 ☎ 987 五〇五〇

四十六年卒 糸井 友子 ☎ 971 二七五三

五十年 卒 小林 明美 ☎ 302 五七七三

58年度 修学旅行

今年、学校はじめて最初、都立校でも  
数少ないと思いますが、サンフラワー号を利用  
して、高知・金比羅・小豆島・倉敷(半数  
は逆コース)と11月7日(月)から96時間出か  
けました。

桂浜で、五色の小石を拾い、坂本龍馬の銅  
像で記念写真を写す。一寸残酷な感もありま  
したが闘犬を見、小粒ながら竜河洞の石筍に  
目を見張りました。

金比羅さんの石段では息をはずませ、小豆  
島では、オリブの香にふれ、倉敷の流れの  
あるたずまいに心をうばわれる思いでした。



卒業生進路状況 — 2 —

(5) 各種・専修学校 (58年4月調)

学 校 名	現役	浪人	学 校 名	現役	浪人
竹 早 教 員 養 成 所	4②	0	中 央 情 報 テ レ ッ ク ス 学 院	1	0
東 京 教 育 専 門 学 校	2	0	東 京 オ ベ レ ー タ ー 学 院	3	0
神 田 外 語 学 院	3	0	東 京 電 子 専 門 学 校	1	0
グ レ ッ グ 東 京 外 語	2(2)	0	日 本 電 子 専 門 学 校	8(1)	0
通 訊 ガ イ ド 養 成 所	2	0	香 川 栄 養 専 門 学 校	1	0
東 京 Y M C A 英 語 専 門 学 校	1	0	東 京 栄 養 専 門 学 校	1	0
大 原 簿 記 学 校	1	0	華 学 園 栄 養 専 門 学 校	1(1)	0
お 茶 の 水 タ イ プ 専 門 学 校	1(1)	0	文 化 服 装 学 院	1	0
津 田 ス ク ー ル ・ オ プ ・ ビ ジ ネ ス	6(1)	0	武 蔵 野 栄 養 専 門 学 校	1(1)	0
東 京 会 計 専 門 学 校	0	1	青 山 コ ー デ ィ ン グ ス ク ー ル	1	0
東 京 ス ク ー ル ・ オ プ ・ ビ ジ ネ ス	5(1)	0	青 山 ド ラ フ ト ・ セ ン タ ー	1	0
中 野 ス ク ー ル ・ オ プ ・ ビ ジ ネ ス	1	0	国 際 観 光 文 化 学 院	1	0
一 ツ 橋 ス ク ー ル ・ オ プ ・ ビ ジ ネ ス	4	0	千 代 田 工 科 芸 術 専 門 学 校	1	0
村 田 簿 記	2(1)	0	東 急 自 動 車 整 備 専 門 学 校	1	0
早 稲 田 速 記 学 校	2(1)	0	東 京 工 学 院 専 門 学 校	1	0
川 口 市 立 看 護 専 門 学 校	1	0	東 京 写 真 専 門 学 校	1	0
国 立 病 院 医 療 セ ン タ ー 附 属 看 護 学 校	2	0	東 京 総 合 理 容 美 容 専 門 学 校	1	0
帝 京 医 学 技 術 専 門 学 校	1(1)	0	東 京 デ ザ イ ナ ー 学 院	3(2)	0
東 京 都 歯 科 医 師 会 附 属 医 療 事 務 助 手 学 校	0	1	東 京 ミ ュ ー ジ ッ ク セ ン タ ー	1	0
都 立 豊 島 看 護 専 門 学 校	1	0	東 京 Y M C A 社 会 体 育 専 門 学 校	1(1)	0
東 京 医 科 歯 科 大 附 属 歯 科 衛 生 士 学 校	1	0	東 放 学 園 専 門 学 校	3	0
日 本 医 療 歯 科 助 手 学 院	2(2)	0	日 本 工 学 院 専 門 学 校	3	0
日 本 歯 科 大 附 属 歯 科 専 門 学 校	1	0	日 本 書 道 専 門 学 校	1	0
日 本 厚 生 年 金 看 護 専 門 学 校	1	0	日 本 デ ザ イ ン 専 門 学 校	1(1)	0
日 大 医 学 部 附 属 看 護 専 門 学 校	1	0			
駿 台 電 算 専 門 学 校	1	0	合 計	87	2

(6) 就職予定者 (59年3月卒業予定者)

氏 名	企 業 名	氏 名	企 業 名	
A 植竹 慎二	東 京 金 属 製 作 所	H 村里 美樹	電 電 公 社	公務員試験合格者 (一次を含む) A 鈴木智香久…国家 E 海老原京子…国家 F 谷田貝奈保美…国 F 須田 理恵…国家 G 杉本 則好…国家 I 斎藤 裕子…地方 J 川口 書史…国家
" 大野 洋子	勸 業 角 丸 証 券	I 春日 偉順	電 電 公 社	
" 鬼沢 香苗	電 波 振 興 会	" 安藤ゆかり	東 京 相 互 銀 行	
" 後藤 容子	ト ヨ タ 自 動 車	" 加藤絵理子	中 央 信 託 銀 行	
" 白木 美紀	イ マ ギ 販 売	" 倉野 礼美	埼 玉 銀 行	
B 小島みつる	森 紙 販 売	" 中島身江子	三 井 銀 行	
" 島田 和美	日 本 信 販	" 平川由美子	住 友 銀 行	
" 広江 昭子	資 生 堂	" 牛腸美也子	ホ テ ル ニ ュ ー 大 谷	
D 小西 良枝	電 波 振 興 会	J 磯島 裕子	大 同 化 学	
" 吉田 正子	日 大 歯 学 部	" 子安美喜子	蛇 の 目 ミ シ ン	
F 梅木美枝子	キャフトフードサービス	" 桜井 美子	東 京 ビ ュ ー ティ セ ン タ ー	
" 中村 篤子	大 同 化 学	" 野原 緑	三 井 銀 行	
" 林 由紀子	日 本 債 券 銀 行	" 久源 明美	大 陽 生 命	
G 堀 武男	ア タ プ ー ル 松 屋	" 吉岡 明美	ク ラ ヤ 薬 品	
H 中島 早苗	電 電 公 社		(以上 29名)	



昭和57年度

都立文京高等学校同窓会会計報告

昭和57.5.22～58.5.20の間の会計は次の通りになります。

昭和58年5月20日 会長 渡辺 剛彰  
 会計 太田 敏夫  
 監査の上、正確であることを認証します。  
 昭和58年5月30日 会計監査 鎌田 次彦  
 " 佐藤 勝英

1. 財産目録(58.5.20)

イ. 貸付信託(基本財産) 12,610,000円  
 ロ. 現金(含郵便口座) 1,805,358円  
 ハ. 物 品  
 ①両開き書庫4 ②書類入れ1  
 ③金庫1 ④手提金庫1 ⑤机2  
 ⑥いす1 ⑦ファイル1  
 ⑧ストープ1 ⑨三脚1  
 ニ. 郵便口座 129,500円  
 ホ. 奨学基金(金銭信託) 1,237,279円  
 ヘ. 会館建設基金(") 1,257,748円  
 ト. 50周年基金(貸付信託) 400,000円

2. 現 金

イ. 収 入 5,789,719円  
 繰 越 し 1,623,447円  
 会費(57年度卒,7500×421) 3,157,500円  
 賛 助 金 80,000円  
 名簿・記念誌 41,000円  
 郵便振替 129,500円  
 利 息 758,272円  
 ロ. 支 出 3,984,361円  
 経 常 費 2,584,361円  
 各部・事務手当 85,000円  
 名簿(630冊・バラ50冊分) 985,000円  
 会報(11,000部) 308,000円  
 " 送料(9729×70) 681,030円  
 " 発送費 69,169円  
 文京だより(4,000部) 96,000円  
 後援費(母校・卒業生) 80,000円  
 人件費 4,000円  
 通信交通費 50,365円  
 運営費 127,887円  
 慶弔費 35,410円  
 金 庫 53,000円  
 三 脚 9,500円  
 貸付信託 1,000,000円  
 奨学基金 100,000円  
 会館基金 100,000円  
 50周年基金 200,000円  
 ハ. 繰 越 金 1,805,358円

昭和58年度

予 算 案

〔収 入〕 6,533,358円  
 繰 越 金 1,805,358円  
 利子配当 800,000円  
 58年卒会費(8,000×456) 3,648,000円  
 その他 賛 助 金 240,000円  
 名 簿 40,000円

〔支 出〕 4,435,000円  
 経 常 費 3,035,000円

各 部 (名簿・会報・広報各5,000円  
 ゲンス40,000、  
 事務手当30,000円) 85,000円  
 名 簿 (630部+バラ50冊分) 1,000,000円  
 会 報 (11,500部) 330,000円  
 " 送料 (10,000部×70) 700,000円  
 " 発送費 100,000円  
 文京だより (4,000部) 100,000円  
 後援費 (母校・卒業生) 120,000円  
 名簿職業欄アンケート (1,000枚) 100,000円  
 通信・交通費 50,000円  
 運 営 費 130,000円  
 慶 弔 費 50,000円  
 写真機一式 200,000円  
 予 備 費 50,000円  
 貸付信託 1,000,000円  
 奨学基金 100,000円  
 会館基金 100,000円  
 50周年基金 200,000円

〔繰 越 金〕 2,098,358円

# 市三会だより



(水戸・笠間バス旅行) 佐竹寺にて

卒業の期や、男女の別を超えて、単に母校関係からスタートした同窓有志の集い「市三会」は、59年10月で満10周年を迎えます。発足以来13日を中心にして毎月一回、誰かしら集い現在までずっと続けて来ました。これも会員のご理解・ご協力があったの事です。

会員の職業・地位に束縛されず、友人として自由に語り合えるサラシ的な雰囲気、自然と会を維持して来たと言えましよう。

会員名簿や会報も発行され、いつどなたが参加されても、すぐに暖かい会のムードに緊張もとれ、やがて竹馬の友として、自然に二次会に誘われてしまう昨今の状況です。

入会され、価値ある無駄を味わって見ませんか。会費は年3千円、毎月の参加費は夕食付で約4千円です。

世話人 末 正明 ☎2611-5111

## プラスバンド部だより

文京OB吹奏楽団  
文京高校吹奏楽団

## 第9回定期演奏会

例年、開催してまいりました私達の演奏会も回を重ねて来ました。昨年は8月に豊島区

南大塚社会教育会館でOB中心の発表会を、4月定期演奏会の他に持ちました。頑張ります。

日時 59年3月28日(水) 午後5時半  
会場 豊島公会堂  
曲目 威風堂々第4番 一部  
アルヴアマール序曲(他) 一部  
アニー  
スターウォーズ 他 二部

(曲目は予定)



58年4月3日 第8回定期演奏会  
板橋区立文化会館

**勝山歯科医院**

一A 勝山和夫

墨田区太平3-14-5

Tel(医院)623-6592(自)659-5675

**同窓有志の集い**

市三会

世話人 一B 末正明  
一B 栗原正昭  
4 E 榎本幸三**静谷クリニック**

(内科)

四B 静谷晴夫

〒170 豊島区西巢鴨4-6-2  
Tel(医院)910-1136(自)910-1219**ヨシヒデ金属KK代表取締役**(非鉄金属材料の販売)  
(金属材料コンサルタント)

一A 郡司良典

〒180-03東久留米市小山1-17-3  
Tel 0424-71-4415**出光ガソリンスタンド  
自動車販売整備**飯田橋・神保町  
一B 末正明〒112 文京区後楽2-6-1  
Tel(会)261-5111(自)811-0755  
(夜)944-3248**創美建設(株)代表取締役**

四D 館野俊一

〒114 北区西ヶ原3-65-16  
Tel(自)918-0015(会)949-0007**婦人科渡辺クリニック**

一A 渡辺邦緒

〒107 港区北青山3-5-22  
青山通り富士銀行ツバ

Tel(医院)403-3777(自)719-1778

**高松診療所**

一B 野久保泰徳

〒190 立川市高松町2-2-14  
Tel 0425-27-3541東京都北区議会議員  
医療法人赤羽病院常務理事  
王子税理士会顧問  
税理士

四E はいばら富士雄

〒115 北区志茂1-17-13  
TEL 901-8554**弁護士**

一A 渡辺剛彰

〒113 文京区西片2-12-23  
Tel(事)814-1984(自)811-7704**虎の門日比谷クリニック**  
(皮膚科、泌尿器科、形成外科)  
健保扱い一C 山中秀男  
(自)〒152 目黒区目黒本町4-8-20  
〒105 港区虎ノ門1-1-20  
虎ノ門実業会館5階  
Tel(医院)508-2508(自)714-9518**静谷歯科医院(歯科一般)**

4D 静谷栄夫

(午前)〒170 豊島区駒込3-11-3  
Tel 915-1108  
(午後)〒170 豊島区巢鴨3-8-15  
Tel 915-0072**渡辺歯科医院**

一A 渡辺敏雄

〒160 新宿区新宿7-2-4  
Tel(医院)203-3952  
(自)351-7976**池谷製作所**

(メガネ・レンズ製作)

一D 池谷利一  
〒160 新宿区大久保2-13-16  
Tel(会)209-8631(自)209-8118**弁護士**14C 三角信行  
〒103 中央区日本橋1-2-10  
東洋ビル9階  
東京綜合法律事務所  
(事務所)TEL 272-3761  
(自宅)TEL 964-8983**三崎町医院**

成人病相談

一B 福山正臣

〒101 千代田区三崎町2-21-1  
TEL(医院)261-7446  
(自)904-4844  
社会福祉法人 全国ペーチェット協会**医療法人 池袋大久保病院**

(内科・胃腸科)

院長  
二B 大久保宏  
〒171 豊島区西池袋1-43-5  
Tel(医院)987-3785-7  
(自)981-1623**弁護士**18・I 宮本智  
〒100 千代田区有楽町1-6-8  
松井ビル6階  
旬報法律事務所  
TEL(事務所)580-5311  
(自宅)0423-44-2915**八洲印刷K.K.**

一B 川上光男

〒114 北区王子本町2-11-6  
Tel(会)909-3211(自)815-2839**弁護士**二D 原田策司  
〒104 中央区銀座7-5-4 毛利ビル4階  
Tel 571-1780(代)  
自宅 大田区上池台3-30-1**南浦和・セキハタ歯科医院**

21・I 関端徹

〒336 浦和市南浦和2-7-17  
Tel(医院)0488-86-1818  
(自)0482-68-9176**(株)栗原製作所**

(各種ディスプレイ企画製造)

一B 栗原正昭

〒111 台東区元浅草4-5-5  
Tel 841-2515(代)**産婦人科**

三E 小室陽一

〒114 北区岸町1-12-22  
Tel(医院)907-0303(自)907-0280**斉藤商店(精肉・食品卸)**

29F 斉藤智夫

〒112 文京区白山5-1-15  
(会社)TEL 815-5771  
(自宅)TEL 815-0029